

小規模多機能型居宅介護施設 きやま虹の家「サービス評価」 総括表

|      |                     |     |        |           |   |
|------|---------------------|-----|--------|-----------|---|
| 法人名  | 若狭町社会福祉協議会          | 代表者 | 山崎 和男  | 法人・事業所の特徴 | 若狭町初の「民家を改修した小規模多機能ホーム」であり、利用者さんには住み慣れた自分の家と同じような感覚で過ごすことができる。また、常勤の正看護師が配置されており、機能訓練や褥瘡予防、体調管理等の助言などにも力を入れている。また、地域の方には以前からのご近所づきあいのように、とれたての季節野菜、果物等の差し入れがあったり、そのいただいた収穫物で作ったお菓子でお礼をするなど、温かい交流を続けている。 |
| 事業所名 | 小規模多機能ホーム<br>きやま虹の家 | 管理者 | 中畑 奈々江 |           |   |

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計  |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
|     | 人     | 人        | 4人        | 人   | 1人    | 1人         | 人     | 6人    | 人   | 12人 |

| 項目                     | 前回の改善計画   | 前回の改善計画に対する取組み・結果  | 意見  | 今回の改善計画  |
|------------------------|---|--|---|--|
| A. 事業所自己評価の確認          | 利用者情報カードの作成や見直しを行い、その人らしい支援につなげるようにする。<br>本人・家族さんの必要としている支援ができるよう、不安を受け止め、関係づくりのための配慮をする。 | 利用者の情報を共有するために、毎朝のミーティングでその日と前日の利用者の様子を話し合い対応方法について検討した。<br>一人ひとりの活動にも目を向け、興味のある事を活動に繋げる事ができるよう、畑作りや調理活動、裁縫など様々な事を行った。<br>職員も利用者全ての興味のある事や可能性を把握しているため、関心を向ける事ができた。<br>家族との関係づくりでは、連絡ノートを使いこまめに連携を図った。 | 利用者情報カードについては、理解できたが、具体的なイメージはわかなかった。資料として付けてもらえるといい。<br>色々な行事を企画していて良い。          | 利用者カードの作成はその方の誕生日月に作成するようにする。<br>新規の初期アセスメントをし、丁寧な支援を心掛ける。<br>自分の意志を上手く伝えられない人についての支援方法を検討。<br>そのため昔の得意なことされていた仕事、興味のある事などを見つけ楽しみのある生活を送れるように支援する。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境         | 今後も「虹の家だより」や「夏休み・春休み企画」で、積極的に地域に根差した活動を行っていく。   | 虹の家に広報誌を作成し、全戸配布した。また、春休み・夏休み企画も行い、年齢に関係なく交流できるようにした。  | 自分自身が事業所に来る事がないので分からない。家族が利用していれば分かると思う。  | もっと気軽に寄っていただける雰囲気作りを今後も行っていく。<br>利用者の方や家族や地域の方の意見をたくさんいただき、運営に生かせるよう交流の機会を今後も企画する。   |
| C. 事業所と地域のかかわり         | 今後も、積極的に職員の勤務を調整し、地域の活動やイベント・会議に参加する。<br>地域の方々も、参加・協力いただけるイベントを企画する。                      | 月1回のにじカフェの開催、春休み・夏休みイベントの実施、感謝祭など地域の方に参加していただけた行事を行い、利用者の方との馴染みのある方もたくさん参加して下さった。行事を開催するお、地域の方の力を借りる事も多く、楽しみの一つとなった。   | 色々な行事も企画し、研修も行うとしているが、職員の方が大変なのではないか。   | 今後も地域の活動やイベントに参加し交流を深める。<br>地域の資源の活用では、若狭町や気山地区の資源を知り、活用につなげる。   |
| D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み | 引き続き、地域との関係が途切れない、柔軟な支援をしていきたい。<br>必要に応じて各関係機関と連携する。                                      | 地域の中で行われる会議には、ほとんど参加する事はなかったが、行事にはお誘いがあった時はその都度参加する事ができた。  | 利用者以外のご近所の心配な方との関りはあるのか。  | 今後も地域の活動やイベントに参加し交流を深める。<br>地域包括支援センターで行っている研修会に参加し、職員の資質向上に努める。   |
| E. 運営推進会議を活かした取組み      | 今後も、「にじカフェ」を定着させる。運営推進委員さんと情報を出し合い、共有する。  | 「にじカフェ」には、毎月たくさんの方の参加をいただいている。<br>地域の方の意見をいただき、玄関に屋根とカーポートを設置し、雪や雨の送迎が安全に行う事ができるようにした。   | 地域の心配なことを相談する場として活用するといいいのでは。<br>また、行った事がないと相談もしにくいと思うので、何か地域の人も通える仕組みがあるといいいのでは。 | 今まで以上に地域の相談所として利用してもらえるよう、「にじカフェ」の開催日が分かるチラシを配布しどの年代の方も気軽に来ていただけるようにする。  |
| F. 事業所の防災・災害対策         | 次年度も、地域の防災訓練に参加する。また、事業所独自の防災訓練も行い、運営推進委員の方にも声掛けする。                                       | 昨年度は、地域の防災訓練に参加できたが今年は参加できなかった。虹の家の階段の下に防災マップを掲示している。<br>事業所の防災計画もあり、消防署による避難訓練、消火訓練を行っている。  | 運営推進会議で防災計画について説明があったようであるが、1度資料を見てみたい。   | 地域の防災訓練に参加し、災害を想定した訓練を行う。また、様々な災害を想定した話し合いができる機会を作り、家族の方とも共有する。  |